

大村市立福重小学校 学校だより

みどい

令和4年9月15日（木）

文責：校長 田中 康隆

目指す児童像：⑤るさとを愛する子・⑥ふうする子・⑦んせつな子・⑧んきな子

子供たちの興味引かれる自然がいっぱい

台風の影響でまだまだ暑い日が続きますが、朝夕過ごしやすい気候になってきたことから秋の到来を感じます。

ある朝のことですが、お母さんについてやってくる小さい弟さんが手にエノコログサ（通称：猫じゃらし）を持っていました。私も子供の頃よく手に取って友達をくすぐって遊びました。「いいのを持ってるね」と声をかけるとニコツとして、私に「はい」とくれました。

別の日になりますが、5年生の女の子が「校長先生、触ると手が腫れる赤い花って名前何ですか」と聞いてきました。私は「ヒガンバナ（別名：曼珠沙華）じゃないかな」と答えました。女の子は、「ああ、そうか」とすっきりした表情になりました。

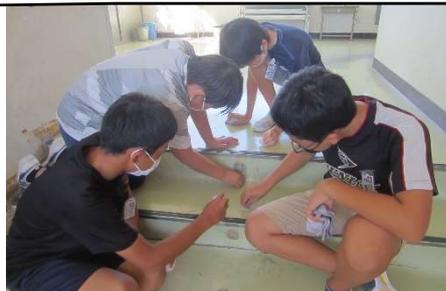
また別の日になりますが、2年生の男の子が手に持った全長5～6センチメートルほどのスポンガメを自慢げに見せてくれました。「学校の裏で見つけたんだよ」ということでした。珍しいサイズだったので、写真に撮らせてもらいました。

子供たちは、日々いろいろなものに興味を示します。開発は進んでいますが、まだまだ自然豊かなこの福重は、子供たちの興味をそそるものばかりです。秋は特にそういう季節なのだと思います。きれいなものを見てきれいだなと感じ、自然に興味を持って接する感性を大切に育てていきたいと改めて思いました。

学びの秋、子供たちの学習の様子から

福重小学校6年生は、総合的な学習の時間に「学校向上プロジェクト」に取り組んでいます。子供たちが、自分たちの目で学校課題を見付け、解決に向けて取り組んでいます。今回は、廊下をピカピカに磨いてくれました。学校のリーダーとしてこういうところからも学校を支えてくれる6年生に感謝です。

掃除用消しゴムのキュッキュツという音が響いていました。



また、3年生は「人権の花運動」に取り組んでいます。この運動は、法務省からの依頼を受け、協力してひまわりを育てることを通して思いやりの心を育み、命の大切さや人権尊重についての理解を深めることを目的としています。取組のまとめの感想は、子供たちの優しさが伝わってくる内容でした。

収穫した種は、この秋、風船に手紙と一緒に乗せて飛ばします。思わぬ所から返事の手紙をもらうこともあるそうです。福重小学校の子供たちの思いが、多くの方に届くといいなと思います。